

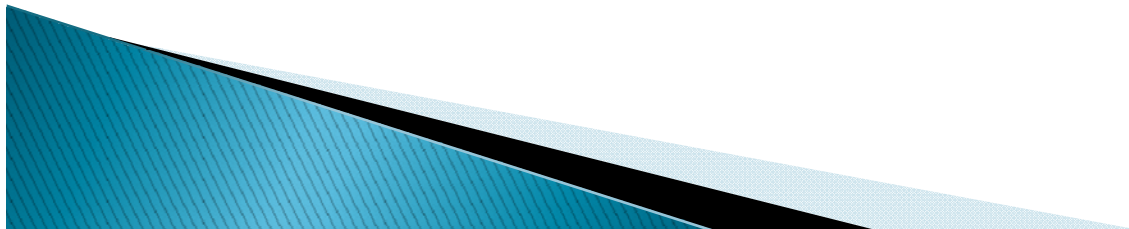
城西大学水田記念図書館の歴史と、これから



平成22年12月3日
若生政江

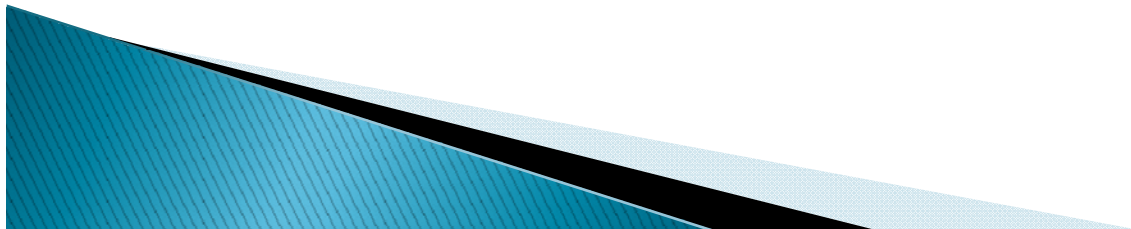
本日の話題

- ▶ 大学を知る
 - 建学の精神
 - 大学の理念
 - 事務組織
- ▶ 図書館を知る
 - 歴代館長
 - 規則
 - 建物の変遷
 - 機械化の変遷
 - 参加団体
 - 蔵書
 - 資料費
- ▶ これからの大学
- ▶ これからの図書館
- ▶ 大学図書館員に必要なもの
- ▶ これからの本学図書館
- ▶ 図書館の課題
 - みんなで考えよう



城西大学を知る

- ▶ 開学は、1965(昭和40)年
 - ・理学部(化学科・数学科)
 - ・経済学部(経済学科)
 - 1973年薬学部
 - 1983年女子短期大学部
 - その後、経営学部・現代政策学部
-
- ▶ 現在は、
 - 大学院(修士7科・博士1科)
 - 5学部
 - 短大
 - 別科



建学の精神 「学問による人間形成」 (創立者 水田三喜男先生第1回卒業式の告示)

- ▶ われわれが、昭和40年4月に総合大学として城西大学を創設したのは、一つには、近来向上しつつある国民の進学要望に応えるためであり、二つには、国家社会のよりよき形成者としての人材の育成は、既成の大学だけでは充分でないと考えたからである。
- ▶ いうまでもなく、学問はそれ自体が目的ではなく、あくまでも人間形成の手段である。立派な人間によってのみ、立派な社会がつくられるのだから、現世のために、後世のために、国家社会の重荷にたえられる人材の教育を天職として、挙学その責に任じたいと考え、この大学を創設したのである。

—大学HP—



大学の理念

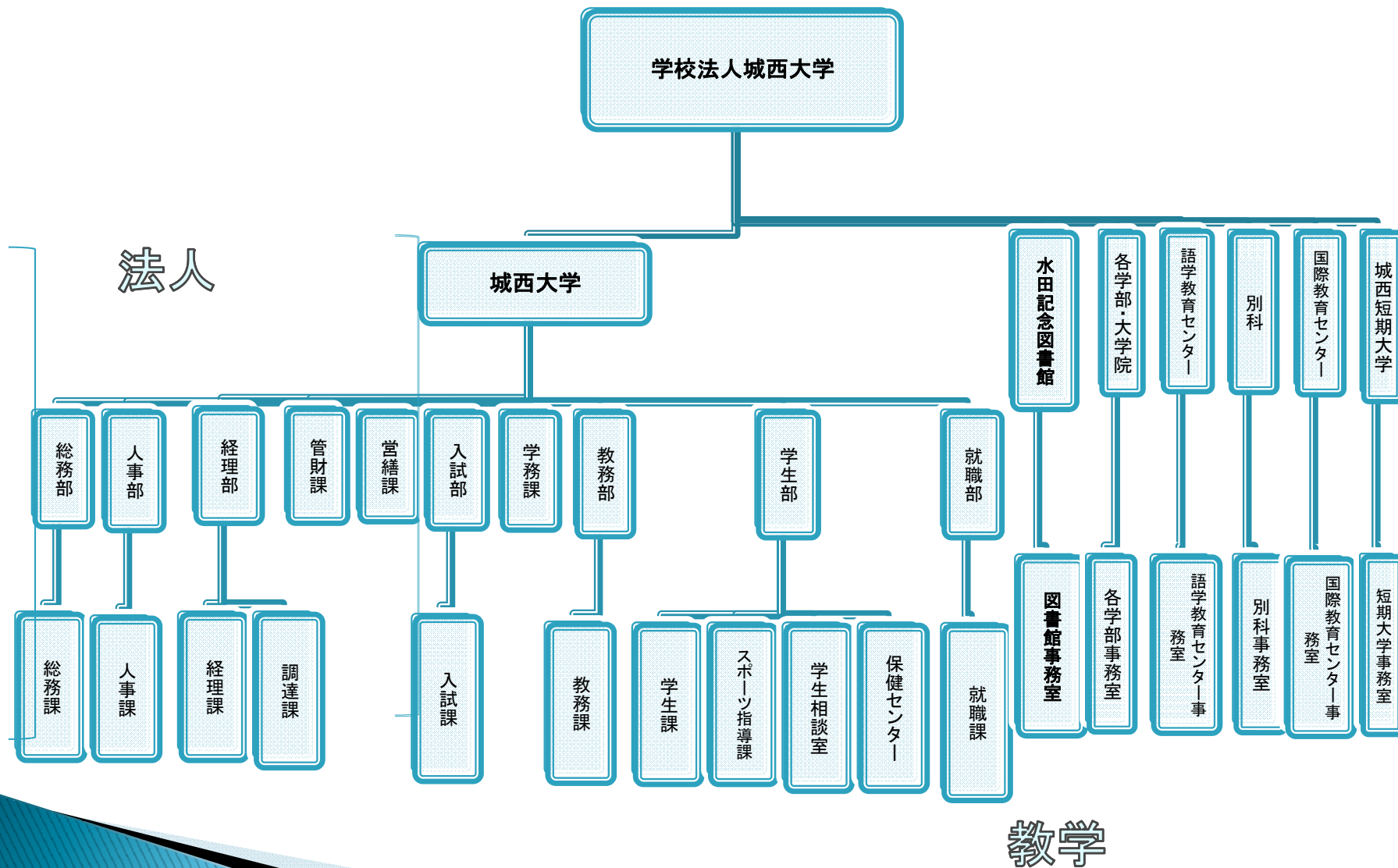
▶ 大学の理念

「社会が発展するために必要とされる人材を育成することによって、人類の福祉に貢献すること」

▶ アドミッションポリシー

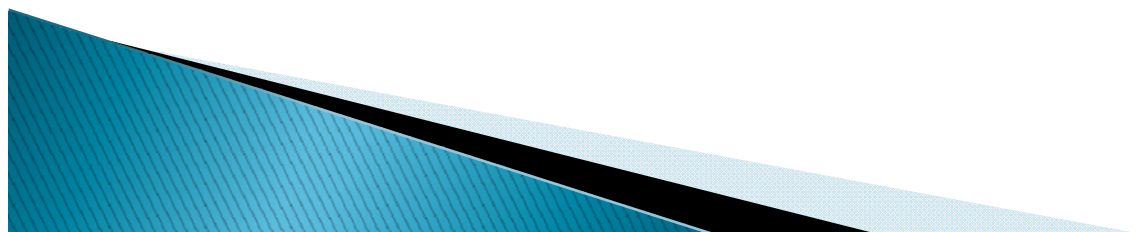
1. 教養を広め、専門知識の向上、資格取得のため自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人。
2. 物事の課題や問題点を考え、解決するために意欲的に努力する人。
3. 学業、社会貢献、文化・芸術やスポーツなどの分野で活動歴があり、本学でさらにその分野の可能性を伸ばしていきたい人。
4. 国際的視野に立って、自らに課せられた社会的使命の達成に努力したい人。

事務組織



図書館を知る(歴代図書館長)

- ▶ 初代 1965年～ 新藤富五郎副学長兼任
- ▶ 第2代1971年～ 穂刈四三二(数学)
- ▶ 第3代1974年～ 前田充明学長兼任
- ▶ 第4代1977年～ 永田義男(数学)
- ▶ 第5代1981年～ 山田俊一(薬学)
- ▶ 第6代1986年～ 石川澄雄(化学)
- ▶ 第7代 2003年～ 木村浩(教育学)
- ▶ 第8代 2009年～ 黄色瑞華(国文学)



図書館を知る(規則)

▶ 城西大学学則

第72条 本学に図書館を置く。

2 図書館の管理運営その他必要な事項は、別に定める

○ 城西大学水田記念図書館規程

- 図書管理細則
 - 収書方針
 - 選書の基準
- 利用細則
- ライブラリーカード会員に関する細則

○ 城西大学機関リポジトリ管理運営規程

○ 【委員会(図書館関係)】

- 運営委員会に関する細則
- 選書委員会に関する内規
- JURA運営委員会に関する細則

理事会

執行部会議

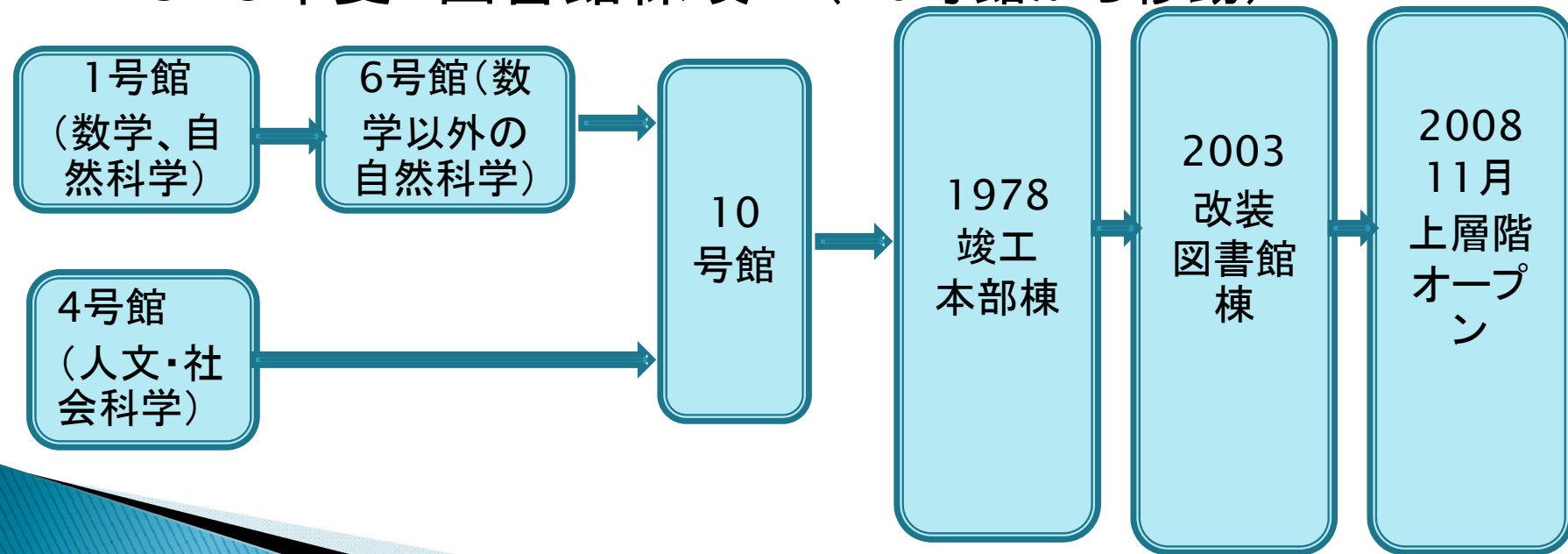
教授会

部課長連絡会

その他各種委員会

図書館を知る(建物の変遷)

- ▶ 学部図書室(経済学部4号館2階、理学部1号館4階)
- ▶ 1973年薬学部開設(1号館から数学以外の自然科学資料を6号館へ)
- ▶ 10号館新築(4号館、6号館から移動)
- ▶ 1978年夏 図書館棟竣工(10号館から移動)



図書館を知る(機械化の変遷1)

- ▶ 学部ごとの担当制業務
学科単位で和洋別図書原簿 **カード目録**
研究費図書も一緒に登録 → 途中から研究費図書を分ける
- ▶ 1980年 業務体制の見直し(**縦から横へ**)
資料ID一本化、
図書(発注・受入・整理)、雑誌、ILL
閲覧は全員体制
情報センターの大型計算機を使用
(所蔵 データ入力 書誌データは書名をカナ入力) **カード目録**
(蔵書点検=OCRラベル添付)資産修正
- ▶ 1986年 学術情報センター設置 (目録所在情報)
- ▶ 1988年 **図書館システム「JULIAS」**開発(図書館と情報センター)
機械可読目録
(書誌データは、洋書をキノマーク、和書をJPマーク)

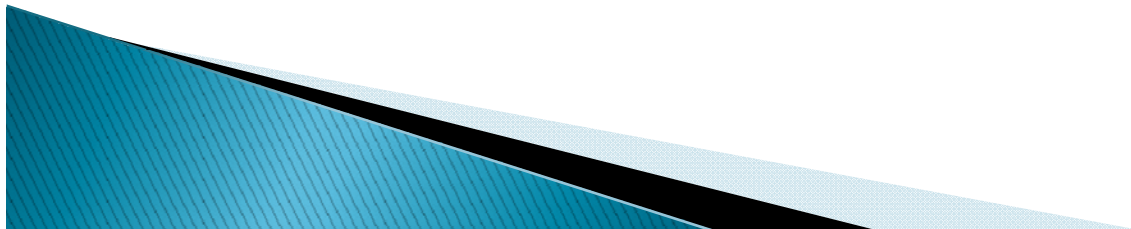
図書館を知る(機械化の変遷2)

- ▶ 1992年 書誌データ遡及
洋書60,000件OCLC、和書100,000件TRC
DOBIS仕様の磁気テープ納品
JIU立ち上げ35,000冊DOBIS仕様(OCLC、JPマーク)
11,688冊除籍、主に重複本、不明・紛失
- ▶ 1993年 雑誌を新聞図書費購入、製本額を資産に変更
4,458冊除籍 主に学会誌・紀要製本分
- ▶ 1995年 **IBM「DOBIS」**導入(図書館統合システム)
(書誌データは、NACSIS取り込み)
製本所蔵データパンチ70,000冊
1996年JULIAS分除籍4,546冊
2000年問題
- ▶ 1999年 **IBM「LibVision Ver.2」**
JIUでLibVision Ver.1を使用していた
Web OPAC KWIC切り出し



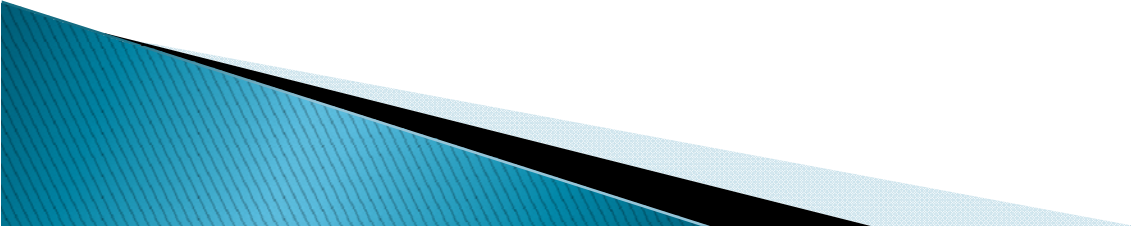
図書館を知る(機械化の変遷3)

- ▶ 2004年 NEC「E-Cats」導入(Webシステム)
電子資料の一元管理(機能追加)
OCRからバーコードへ
- ▶ 2008年 業務委託開始
- ▶ 2009年 「E-Cats」バージョンアップ



図書館を知る(参加団体)

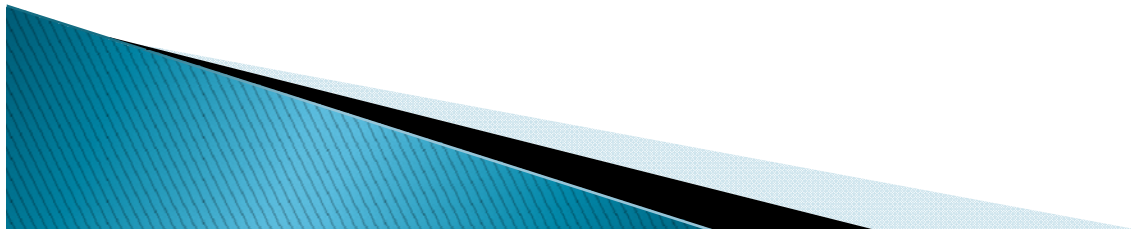
- ▶ 日本図書館協会
 - ▶ 私立大学図書館協会
 - ▶ 日本薬学図書館協議会(JPLA)
 - ・機関誌「薬学図書館」編集委員会
 - ・JPLA雑誌問題検討委員会
 - ▶ 埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)
 - ・SALA幹事館
 - ▶ 公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)
 - ▶ DRF(Digital Repository Federation)

 - ▶ 日本私立大学連盟
 - ▶ 大学基準協会
 - ▶ 私立大学情報教育協会(情報センター)
 - ▶ 経済企画協会
- 

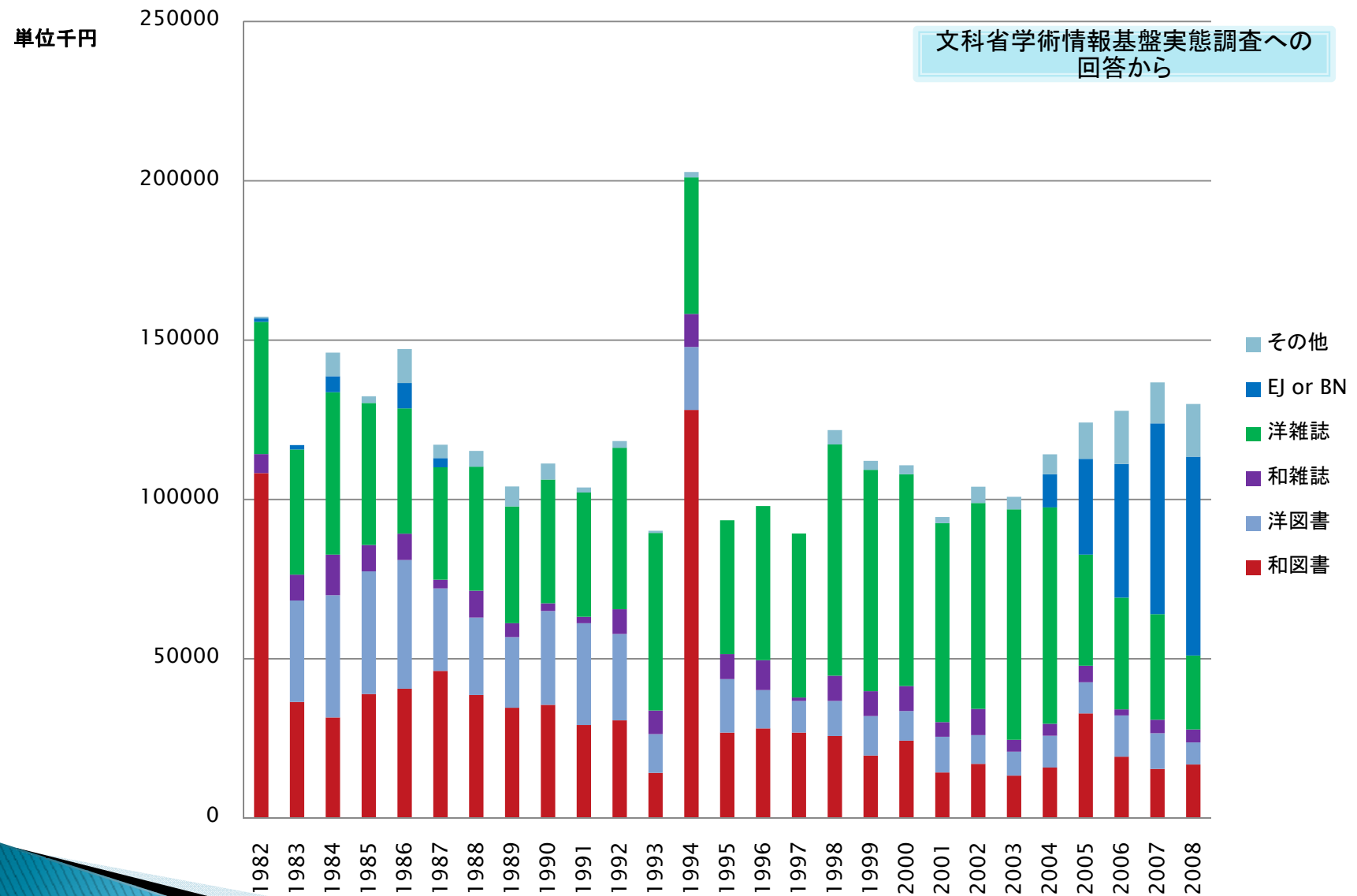
図書館を知る(蔵書)

▶ コレクション

- ゲルシェンクロン(Gerschenkron)文庫 (ソビエト経済)
- ラウム(Laum)文庫 (ドイツ経済、貨幣経済)
- 赤松要文庫
- 石田磯次文庫
- 下條英男文庫
- 野澤孝之助文庫
- 蒔田栄一文庫
- 18世紀イギリス庶民院資料. (全147巻)
- 19世紀イギリス議会資料(ブルー・ブックス)
- アイルランド議会資料
- 英国中世史研究資料
- 統計研究会文庫
- 漢方古書類



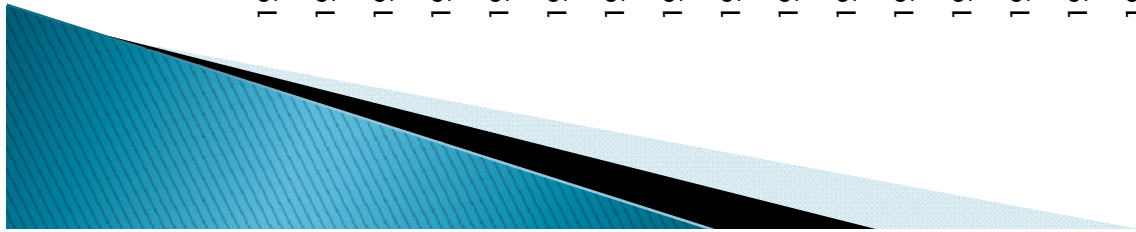
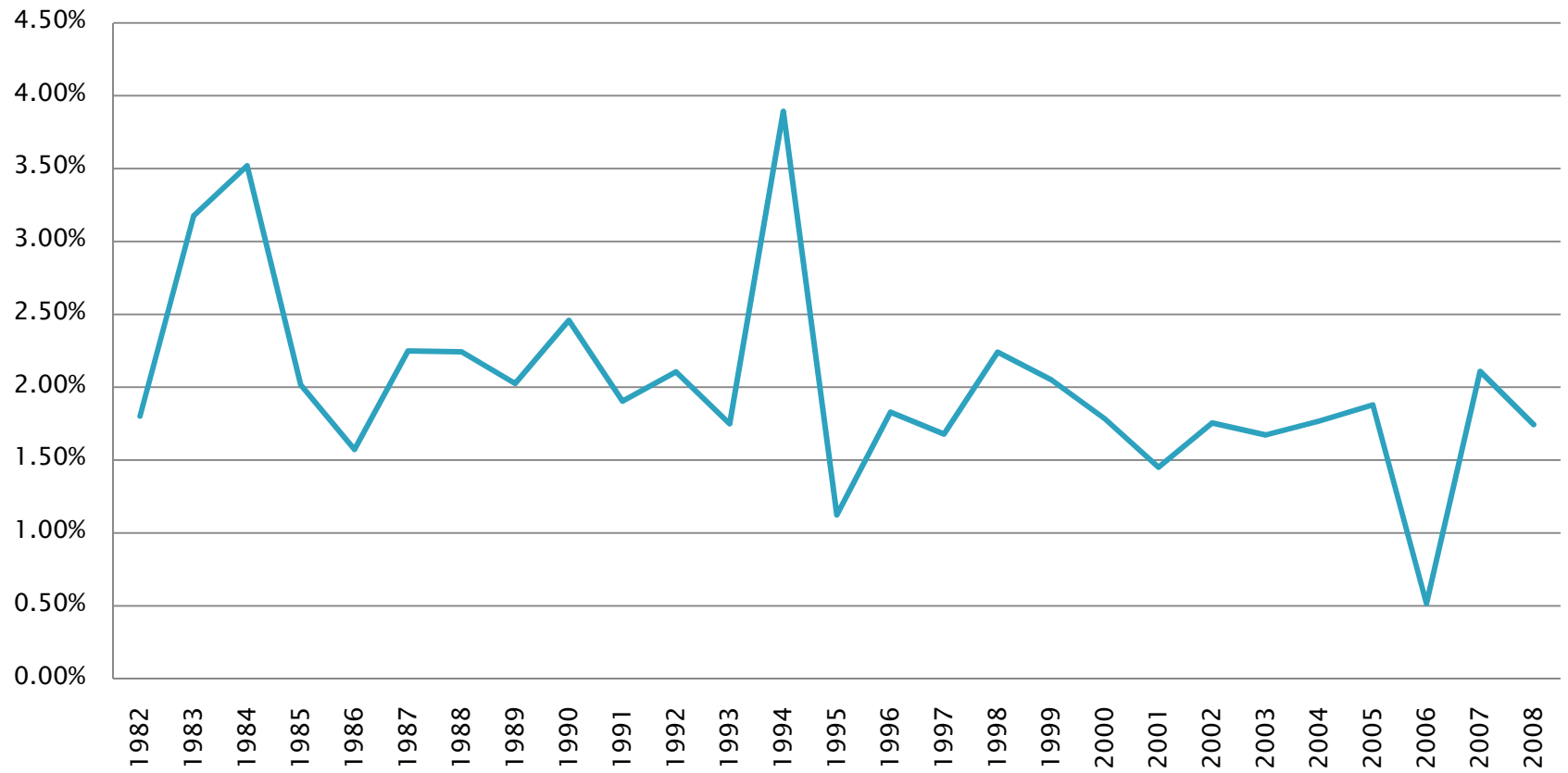
図書館を知る(資料費1)



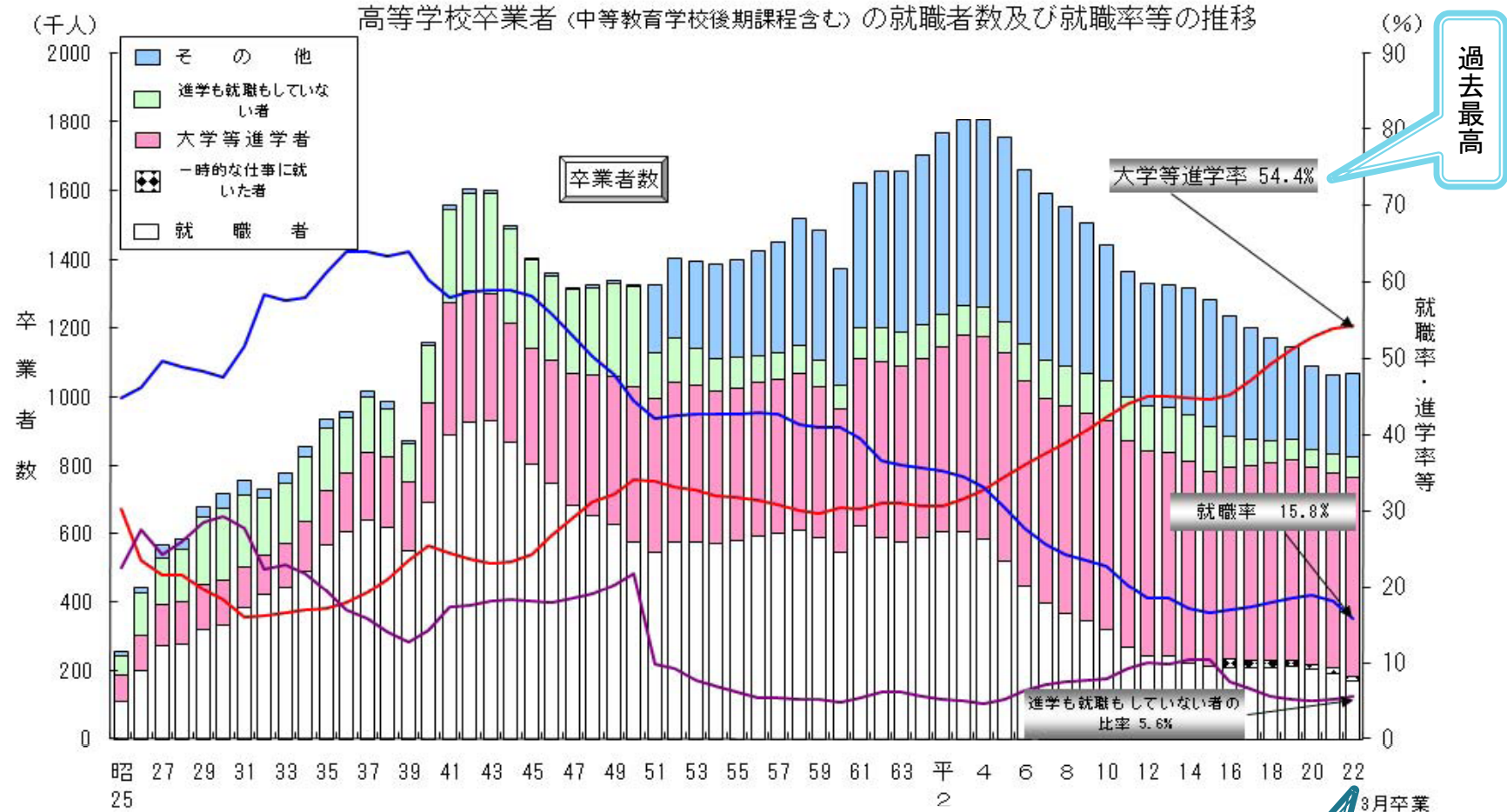
その他は図書・雑誌・電子ジャーナル以外、AV資料、DBなど

図書館を知る(資料費2)

大学総経費における図書館資料費



これからの大学(大学進学率)



平成22年度学校基本調査の速報について(平成22年8月5日)より参照

高校卒業生数
107万1千

これからの大学

- ▶ 少子高齢化 → 全入時代
- ▶ 大学数の増加 → ユニバーサル化
- ▶ 文科省規制緩和 → 大学の市場化
- ▶ グローバル化 → 大学の国際競争
- ▶ 留学生30万人計画

▶ 大学の役割の変化

- 教育
- 研究
- 社会貢献
- 地域貢献

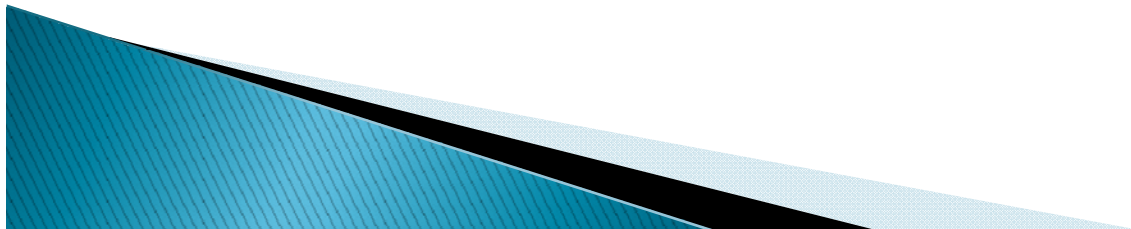
学士力(基礎力)
専門教育、資格教育
キャリア教育・国際教育

競争

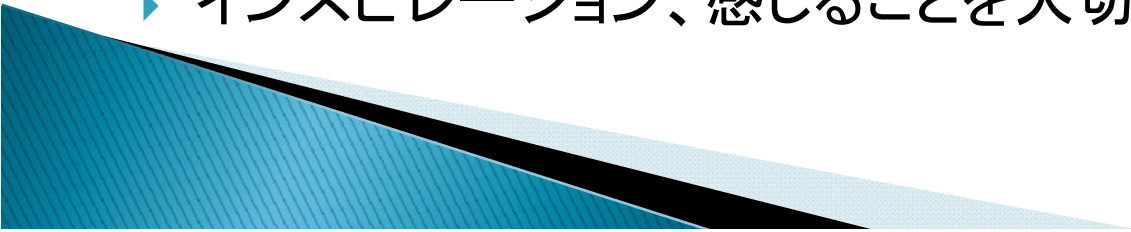
教育・研究の成果
社会的責任
授業評価・自己点検
FD/SD研修
大学の見える化
大学の實力

これからの図書館


- ▶ 学術誌問題の解決に向けて—「包括的学術誌コンソーシアム」の創設—（日本学術会議 平成22年8月2日）
- ▶ 大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ）—電子ジャーナルの効率的な整備及び学術情報発信・流通の推進—（科学技術・学術審議会 学術文化会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会平成21年7月）
- ▶ 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書—教育と情報の基盤としての図書館—（文部科学省「先導的的大学改革推進委託事業」）（筑波大学平成19年3月）



大学図書館員に必要なもの

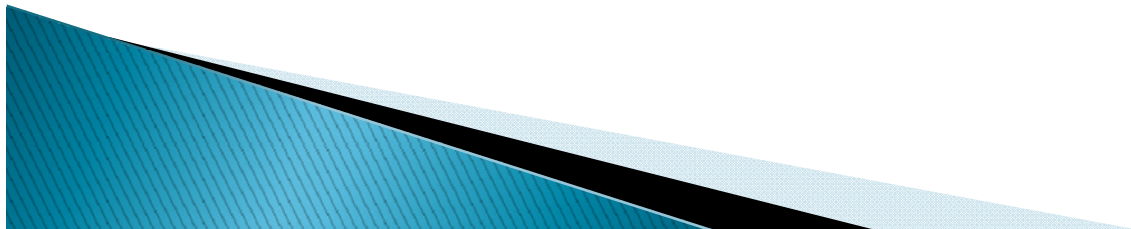
- ▶ 母体(大学)のミッションを理解する
 - ▶ 図書館は大学組織の一部である
 - ▶ 組織力(マネジメント)が必要
 - SD(Staff Development) 職員力+スタッフ力
 - ▶ 積極性、主体性を持つ
 - ▶ マーケティング(学内へ、学外へ)
 - ▶ 公共性・社会性
 - ▶ サービス精神
 - ▶ 危機意識・危機管理が必要
 - ▶ コミュニケーション能力
 - ▶ 五感を使う
 - 話す・書く→表現力→発信能力
 - 見る(読む)・聞く→展望→判断力
 - 近くから遠くへ、詳細から全体へ、過去から未来へ
 - ▶ インスピレーション、感じることを大切に
- 

これからの本学図書館

- ▶ 学習・教育支援の強化
 - 教員との連携
 - 情報リテラシー教育
 - 学生サポーター
 - 学生満足度調査
 - ▶ 生涯教育支援・地域住民の学び支援
場の提供、ILL、公開講座、図書館活用講座、展示、パッケージ貸出など
 - ▶ ハイブリッドライブラリー機能
電子リソースの活用
デジタル化とアーカイブ機能
 - ▶ レファレンス機能の強化
デジタルレファレンス
パスファインダー
eラーニング
チュートリアル
 - ▶ 情報受発信基地としての機能
 - ▶ **大学図書館であることを忘れずに**
- 

伝えたいこと

- ▶ 楽しく元気な図書館と図書館員
- ▶ 進化する大学図書館
- ▶ 図書館の仕事は楽しい
- ▶ いつも新しいことにチャレンジできる
- ▶ 変わらないものと変われる自分
- ▶ 悔いのない仕事を



図書館の課題

- ▶ 皆さんで考えよう

